

子^{ぼつ}と在る、Contents.

覧ずる者なし。

枯れ乾涸びた草花の、吊るされ木乃伊のごとく黙し。

唇に挟んでリードのように震わす、木の葉の笛の^{せつ}截なる響き。
素焼きの埴^{つちあぢ}の無垢な土味。

檜^{ひわだぶき}皮茸、滋味深きなめらかさ。

岩^{ばし}迸る清流の透き。

濡^いれ巖^{いわ}に舞い落ち伏せる紅朽ち葉。

孤独死^{びとにき}人の日記、一、二の頁。罫^{たていと}や^{よこいと}經、緯と。

廃^{いおり}れた庵の秋風がめくり、傾きかけた日の茜に繊維がきらきら鮮
炸晰裂。

鬱蒼のさなか、海かと見まごう^{みずうみ}湖^{ゆうよく}に遊弋する鯢^{こん}。

天穹を遊ぶよう飛翔する娑伽羅^{しゃから}龍神。

悠々と高雲をかいて。

三千大千世界を阿耨多羅三藐三菩提^{あのかたさんみやくさんぼだい}の大華嚴曼荼羅で莊嚴した釈
迦牟尼如来、老いさらばえ瘦せ衰えて罹病^{しかばね}の屍を晒す。

經の古墨のように。